

RS ウイルス感染症予防接種(母子免疫ワクチン)説明文

事前に、この説明文やリーフレット等をよくお読みになり、疑問などがあれば、かかりつけ医や江別市保健センターに問い合わせし、十分納得した上で接種することを決めてください。

【保護者の同伴について】

・16歳未満の方の RS ウイルス感染症予防接種については、保護者の同意が必要です。別紙予診票に保護者自身が署名することによって、保護者の同伴がなくても予防接種が可能です。(この場合、当日は保護者が署名した予診票を必ず持参させてください。保護者の署名がないと予防接種は受けられません。)

1 RS ウイルス感染症について

RS ウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに 50%以上が、2歳までにほぼ 100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2~8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴(ゼーゼーと呼吸しにくくなること)や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。2010年代には、生後24か月未満の乳幼児における年間のRS ウイルス感染症発生数は12万人~18万人であり、3万人~5万人が入院を要したとされています。また、入院例の7%が何らかの人工換気を必要としたとする報告もあります。

RS ウイルスの流行には季節性があり、新型コロナウイルスの流行以前は秋冬に流行が見られましたが、近年は夏に流行がみられています。接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。治療は症状に応じた治療(対症療法)が中心で、重症化した場合には酸素投与、点滴、呼吸管理などを行います。

2 RS ワクチンと効果について

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

RS ウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンとして組換え RS ウイルスワクチン(ファイザー社のアブリスボ®)があります。

	有効性(※1)	
	日齢0~90日	日齢0~180日
RSウイルス感染症による医療受診を必要とした下気道感染症(※2)の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
RSウイルス感染症による医療受診を必要とした重症下気道感染症(※3)の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※1 妊娠24週~36週の妊婦を対象としています。

※2 肺炎、気管支炎等の感染症

※3 医療機関への受診を要する気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸、SpO2 93%未満、高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着、4時間を超えるICUへの収容または無反応・意識不明のいずれかに該当と定義します。

3 接種時期について

接種時点で妊娠28週0日から妊娠36週6日までの妊婦の方

過去の妊娠時に組換えRSウイルスワクチン(母子免疫ワクチン)を接種したことがある方も対象です。

※接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立されていないことから、妊娠38週6日までに出産を予定している方は医師に相談してください。

4 予防接種を受けることができない方

- (1)明らかに発熱(通常 37.5℃以上の場合をいいます)している方
- (2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3)組換え RS ウイルスワクチン(アブリスボ)の成分によってアナフィラキシー様症状を呈したことがある方
「アナフィラキシー」とは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことで、発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。
- (4)その他、医師が予防接種を行うことが不適當な状態と判断した場合

5 予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなければならない方

- (1)妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方
- (2)血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方
- (3)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方
- (4)予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方
- (5)けいれんを起こしたことがある方
- (6)免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (7)組換え RS ウイルスワクチン(アブリスボ)の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

6 予防接種の注意事項

- (1)医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。
ただし、海外の知見で、百日咳菌の防御抗原を含むワクチンとの同時接種で、百日咳菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があり、接種間隔等については医師と相談してください。
- (2)ワクチンの接種後 30 分程度は安静にしてください。
- (3)体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。
- (4)注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。
- (5)当日の激しい運動は控えるようにしてください。

7 副反応について ※下記のホームページや各リーフレットもご確認ください。

ワクチンの接種後に以下のような副反応がみられることがあります。

ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したというものもありますが、解釈に注意が必要であるとされています。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
10%以上	疼痛*(40.6%)、頭痛(31.0%)、筋肉痛(26.5%)
10%未満	紅斑*、腫脹*
頻度不明	発疹、蕁麻疹、ショック、アナフィラキシー

*ワクチンを接種した部位の症状 添付文書より厚生労働省にて作成

8 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく給付を受けることができます。接種を受けたご本人及び出生した児が対象となります。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかを国の審査会にて審議し、認定された場合に給付を受けることができます。

※給付申請の必要性が生じた場合は、診察した医師、江別市保健センターへご相談ください。

ワクチンについて詳しい情報は 各ホームページをご覧ください。	厚生労働省 ホームページ 	江別市 ホームページ 
-----------------------------------	---	---

お問い合わせ先:江別市保健センター Tel011-385-5252